

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400096		
法人名	社会福祉法人 揺籃会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム清祥園		
所在地	深川市納内町北3番59号		
自己評価作成日	2025/3/1	評価結果市町村受理日	2025/4/15

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0197400096-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人昭和46年に設立、平成26年法人合併にて揺籃会となる。昭和47年特別養護老人ホーム清祥園開設。平成18年特養本体にて逆デイサービスを実地し認知症高齢者ケアを少人数で行なう事で出来なかった事が出来るという事に着目し平成24年4月1日に同敷地内に小規模多機能型とグループホーム1ユニットが開設され今年で12年目を迎える。当初に比べ入退居もあり、ADL低下見られ出来る事が少なくなってきた状態ではありましたが、施設にいても自分達に役割がある、頼られている、出来るという思いを持って頂く為に軽作業(洗濯物たたみ、食器拭き、縫物等)やお客様と一緒に菓子作りを楽しんだり、日常の動作(着替え、排泄、移動、入浴等)を見守り、声掛け、一部介助にて行って頂いています。新型コロナウイルス感染5類となり居室での面会をしていますが感染予防継続にて3名までとさせて頂いている。(10:30~11:30、14:00~16:00) その他では保育園児達と一緒に畑作業(じゃがいも種植え、収穫)を再開し交流を計っている。又病院受診は基本はご家族様対応をお願いしていますが、事情により対応が出来ない場合は福祉有償運送を利用し職員が付き添い対応する。受診の結果をご家族様に連絡し情報を共有させて頂いている。グループ通信偶数月に発送し日常生活の写真を通信に入れ込み施設での状態や担当介護職員からのコメントにて生活状況を知って頂き、奇数月には担当職員から電話で直接状態等を報告したり、ご家族様から意見など伺いお客様にとってより良い生活が送れる様に協力体制を取っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「認知症高齢者グループホーム清祥園」は、JR納内駅から徒歩で10分程の静かな住宅地に立地している1ユニットの事業所である。広大な敷地には同法人の特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所があり、法人合同で研修や委員会を開催して協力関係を築いている。室内は、廊下を中心に食堂と居間が独立した開放感のある造りで、家庭的な装飾や調度品が置かれており自宅のように落ち着いて過ごすことができる。毎日、昼のミーティングで理念を唱和して理解を深め、全職員で共有しながら理念の実践につなげている。介護計画は、サービス内容にそって記録している日々の「ケース」記録を基に毎月評価を行い、家族の意向を取りながらモニタリングに反映させている。職員の提案で、偶数月に写真入りの個別便りを送付し、奇数月には電話で様子を伝えるなど、家族と定期的に情報交換しながら事業所からの一方的な状況報告に留まらないようにする新たな取り組みを始めている。感染症の流行に配慮しながら保育園児と一緒に畑作業をしたり、神社のお祭り見物や花見、紅葉狩りなど地域の一員として交流を深めながら積極的に外出する機会を設けている。全職員で利用者一人ひとりの思いや意向にそって、その方が役割を持って生き生きとした日々が送れるように温かな支援をしているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日昼ミーティング時に理念を読み上げ、理念に基づきお客様が自由に安心して生活が送れる様、日々観察、相談し環境を作れる様努めている。	事業所理念に「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切に」という、地域密着型サービスを意識した文言がある。食堂に掲示し、職員のネームプレートにも記載している。昼ミーティングで毎日唱和することで、全職員で理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二区町内会に属しているが感染状況にて行事等の付き合いは控えている。年1回の防火訓練に参加して頂いている。また畑土起こし等で交流を図っている。	感染症の流行で地域行事での交流は少なくなっているが、近隣の保育園児と一緒に畑の苗植えや収穫をしている。深川太子祭りに出かける時、車椅子の介助でボランティアの方が手伝いに来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様には、日常の様子を伝え時には相談しながら共に支えている。地域の方には特養との共同にて介護者教室を行い、認知症の事、介護の事、悩み事等話し合う機会を設けているが、現在はコロナ感染予防の為行えていないが緩和された際には行う予定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し対面での話し合いで意見を頂いている。1度のみ感染流行にて書面会議をしている。施設で行った内部研修の事や又警察の方に協力を得て防犯等の意見交換をしている。	市役所、地域包括支援センター、町内会長、家族代表、駐在所の方などが参加している。活動報告を中心に外部評価も取り上げている。防犯対策の話もあるが議事録にテーマとして記載はしていない。全家族に議事録は送付していない。	議事録にメインテーマを記載し、テーマにそった簡単な資料や利用者状況などの資料も議事録と一緒に全家族に送るよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や電話、メールにて連絡し情報交換や相談を行い協力関係を築いていけるよう取り組んでいる。	地域ケア会議で開催される事例検討会にケアマネジャーが参加している。相談もメールでやり取りすることが多くなったが、運営推進会議で情報交換しながら、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の部署会議にて身体拘束で不適切な言動がないか確認したり、日頃から職員間で不適切な事があれば伝え直したり、年2回特養と合同での内部研修会を行ったり、身体拘束検討委員会に参加し話し合いをしたり身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備して年2回勉強会を開催し、禁止行為11項目も確認している。委員会も法人合同で年4回以上開催している。委員会の職員確認記録と勉強会の資料が法人合同になっているため、事業所独自での記録整備が不足している面もある。玄関の鍵は夜間のみ施錠している。	委員会議事録の職員確認記録・年2回の勉強会の実施記録と資料を事業所独自で整備し、見やすく保管するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の部署会議にて虐待がないか確認したり身体拘束委員会や関連事業所で虐待防止会議に参加し話し合いをしたり、特養と合同で内部研修会を行い虐待防止に努めている。又新聞等で虐待に関する記事が載れば回覧し全職員に周知を図り防止に努めている。		

認知症高齢者グループホーム清祥園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度については、現在対象者がいない為活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時、加算等の改定にはきちんと説明と文章を行い理解と納得をして頂いています。又身体状况によりグループでの生活が困難な状況があればご家族様に説明し特養の申し込みをし次へと繋げている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスを設置し意見等を反映させていますが、苦情件数が0件である。日頃から担当職員が中心にご家族様に面会時や電話連絡にて相談や意見を頂いている。	面会時や電話で利用者の様子を伝え、家族の意見や要望を聞き取っている。意見や要望は連絡ノートに記載しているが、今後は個別の「お客様連絡ノート」に記載して職員間で情報を共有したいと考えている。偶数月に個別便りを送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昼ミーティングや会議等にて意見、提案等行っている。時には相談される事もあり話し合いをしている。	ミーティングや業務の中で職員の意見や提案を聞き取り、ケアの変更などに活かしている。職員の提案で、奇数月と偶数月で交互に個別便りと家族への電話で状況を報告し、家族の意見や要望も聞き取るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度で面接し話し合いをしたり、会議等にて業務の見直しなど検討したりしている。個々からの相談を受け助言等をし職員間で話し合い現場での業務がスムーズに出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	小規模との合同研修を行い職員に担当をつけて書類作成や講師をして頂いたり、内部研修を行い勉強をしケアのスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、SOSネットワーク、ZOOM研修等行い情報交換、交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様より聞き取りをし又居宅担当者より情報を頂き事前に介護職員に情報提供し把握しサービス提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に知りえた情報を基にご本人様、ご家族様から要望等を聞き安心し自立した生活が送れる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、何が出来るのかを見極め、プランに取り入れ1~2か月後に担当者会議をしてサービス提供を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人で行う事、団体で行う事等、出来る事を見出し共に行い、生活しお互いに役に立てているという思いを持って時には相談しながら関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループ通信や電話連絡、通院結果、面会時等担当介護職員を中心に日常の事を伝え相談し共に支え合うなど協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話やお手紙などで馴染みの方との関係を築いている。又事前予約にて1日2回(午前、午後)と直接面会をしている。遠方より来られたり、仕事終わりに寄った(仕事により中々面会に来れない)際には他に面会者がいないか確認した上で居室にて面会をしている。	馴染みの方が来訪することはほとんど無くなったが、携帯電話で自由に連絡している利用者もいる。家族と一緒に外食や喫茶店、美容室に出かけたり、自宅に帰る方もいる。花見などの外出行事で、馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事、レク、軽作業、誕生会、余暇活動にて関わりを持ち、よりよい環境にて支え合えるような支援に努めている。		

認知症高齢者グループホーム清祥園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街で会った際など声を掛け日頃の様子や状態等話す事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前の情報を基にご本人様、ご家族様から聞いた事を基に関係職員で話し合い取り組んでいる。	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。「基本情報」シートに趣味や楽しみ、特技などを記載している。今後は具体的に記載し、定期的に更新したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当介護職員を中心としプランに沿っての評価や状態変化時、日常での会話等でその方の思いなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル、食事、排泄、入浴、水分、日常の活動を把握し普段と違う状態があれば関係職員、小規模看護職員と相談し状況に応じて受診対応している。又ご家族様にも協力を得て受診して頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランが切れる前に担当者会議をして検討し、ご家族様から事前に意見を頂き話し合い次へのプランへと取り入れている。又日ごろからも担当職員より相談を受けその方に応じたケアに努めている。	利用者担当職員が実施している毎月の評価を基に、計画作成担当者を中心にモニタリングを行い、3～6か月ごとに介護計画を作成している。日々の「ケース」記録に介護計画に関する内容も記載し、毎月の評価に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿ったケアを行い、状態変化時等ミーティングや、部署会議等で相談しケース記録や連絡ノートに記載し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症という事を認識出来る事、出来ない事がある為一つのサービスに捉われず介護基本を基にその方々に応じた柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は現在ないが、ご家族様との連絡は密にし楽しい生活が送れる様に支援に心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医にご家族様や職員が受診対応し医師と連携をとり健康維持に努めている。又ご本人様、ご家族様の受診が難しい方は納内診療所にて訪問診療を受けている。	全員がかかりつけ医を継続している。家族と通院する時は利用者担当職員が健康状態を書面で渡している。受診状況は「ケース」記録に個別に記載している。	

認知症高齢者グループホーム清祥園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時は小規模看護職員に相談し診て頂き、様子観察やご家族様に状況を伝え早期受診へ繋げたり、爪切りや処置などお願いし対応して頂いている。その為には日ごろの状態を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は連携室と定期的に連絡を取り状態確認し、退院に向けてグループでの生活が継続出来るのか、又は生活が困難な場合は連携室、ご家族様と次への生活の場を相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にグループでの生活で出来る範囲を説明し、出来なくなってきた際は、特養入所や療養施設・病院への移動等相談し対応炊いている。	利用開始時に食事や排泄、入浴などのケアにそって、事業所として対応が難しくなる具体的な状況について説明している。体調変化に応じて医師と家族、事業所で方針を話し合い、同法人の特別養護老人ホームに移る方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した際は病院に連絡し救急車を請したり、事故等での処置は日頃から看護職員がしているのを見ていたり聞いたりして対応している。マニュアルがある為見て確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い避難出来る様に努めている。町内会の方と災害協力を結んでいる為、毎年8月に防火訓練をしている。災害の訓練を検討していたが感染状況があり行う事が出来ず、令和7年度に行う予定。	年2回、夜間の火災を想定した避難訓練を行い、地域住民も1回参加している。今後、消防署への協力依頼を予定している。救命講習は計画的に実施している。地震想定訓練・危険箇所の確認・ケア別対応の話し合いは不十分な面もある。	年1回は、地震を想定した避難訓練の実施を期待したい。共用空間や居室の危険箇所の確認とケア別の個別対応について話し合い、身体状況の変化に応じて再確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声掛けをしているが、時には言い聞かせをしている事もあり、その際は職員間で伝えあっている。	毎月の部署会議で、トイレの誘導などケア別の声かけについて学んでいる。申し送りは部屋番号を使用することもある。記録はパソコンで行い、書類は扉付きの場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う際はご本人様に確認した上で行って頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせて日々を送って頂いていますが時には職員側の都合にて行動をして頂く事もありその際は説明をし了解を得る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る状態であれば頂き、介助が必要であれば確認したり行ったり、衣類が綻んだりしていれば修繕したり、ご家族様に連絡し購入して頂き身だしなみを整えている。		

認知症高齢者グループホーム清祥園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	湯煎の食事提供をしているが食べられない物があれば代替えている。調理する機会が少なくなった事からおやつ作り、誕生日ケーキを作ったりして食事やおやつ等を楽しむ機会を設けている。	食材会社作成の献立を使用している。畑で収穫したじゃがいもを使用し、いも団子などを作って楽しんでいる。出前の握り寿司やケーキなどのおやつ作りも楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間シート活用し食事量、水分量を把握している。食事が取れていない場合は原因を調べ食事形態を変更したり、受診したり、水分が足りない場合はゼリーを食事以外に提供したり、昼間は細かく声掛けしたり、時間をおいての提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケをして頂き、歯、義歯、歯茎等異常があれば受診又は往診対応している。夕食後には義歯洗浄している。特養と合同で歯科衛生士による勉強会に参加し部署会議にて伝えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に確認しトイレの声掛け、誘導しトイレでの排泄に心掛けているが失禁がある方にはパッド使用しながら対応している。	約半数の方が自立しており、日中は全員トイレを使用している。排泄チェック表に記録し、個々に合わせた声かけや誘導を行っている。時間帯や状況に合わせてパッドの大きさや適切な排泄用品を使用し、排泄の自立へ向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日か2日ない日は朝ヨーグルトを食べて頂いたり、個々に応じて毎日ヨーグルトを食べたり、ヤクルト飲用したり医師からの指示で下剤(水薬)を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴にてゆったりと入浴される。主に午後からの入浴であり、声をかけて入浴して頂いている。受診前日に入ったり、その日に入浴が出来なければ声掛けし翌日等別の日に入ってもらっている。機能維持の為に洗髪、洗身等出来る所はして頂いている。又皮膚の状態を確認し早期対応に心掛けている。	土曜日以外の午後の時間帯を中心に1人当たり週2回の入浴を行っている。シャワー浴が習慣の方などはシャワー浴での対応を行っている。檜で造られた浴槽で、好みの湯加減で職員との会話を楽しみながら入浴している。浴室内にも暖房を設置しており、冬季も浴室内が暖かくなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々により居室で休まれたり、リビングのソファに横になったりしている。又夜間眠れない時は傾聴したり温かい飲み物を飲んで頂いたりし眠気が見られた際は居室誘導し休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診にて内服薬変更になった際は、ケース記録や連絡ノートに記載し周知を図り、用法や用途などが記載されている紙を置いて見て確認する。毎食時、名前、日付け、いつ服用するのかを確認し間違いの無い様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業をして頂いたり、好きなテレビ番組を見たり裁縫、脳トレ、塗り絵等行ったりして過ごしている。		

認知症高齢者グループホーム清祥園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	祭り見物や紅葉ドライブ、敷地内の散策、畑収穫をしたり、感染対策をして頂き美容室や喫茶店、飲食店、自宅に行ったりして頂いている。	敷地内の散歩や畑作業、敷地内テントでのお茶会など、日常的に外気に触れる機会を設けている。お祭りに出かけたり、丸山公園に花見や鯉の見物で外出している。ドライブで音江方面へ銀杏並木を見に行くなど積極的に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もいますが殆どが施設管理となりご家族様と連絡を取りながら必要な物を購入したり受診料を支払いしたり毎月お小遣い預かり表をご家族様に発送し使用内容を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様などから連絡があれば繋げたり、電話をしたいという方には繋げたり、携帯電話を持っている方は自由に連絡をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では季節の物を飾ったり、塗り絵や貼り絵をした物等作品を飾っている。	廊下を中心に左右に居室が広がっている。廊下を挟んで居間と食堂があり、両方から日が射し込み明るく、開放的な造りになっている。季節の装飾や作品が飾られており、温度計や加湿器なども設置し、安心してゆったりと過ごせる共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で殆どの方が集まり会話やテレビを見たり体操、余暇活動をして過ごしている。又窓際に椅子が置いてあり外を眺めたり会話している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある家具・使いなれた家具類を設置し自分の空間を作って頂ける様にご本人様、ご家族様と相談し行っている。	ベッド、クローゼット、洗面台が備え付けられている。テーブルやイスなどの家具やテレビなどの家電品、仏壇などを持ち込んでいる方もいる。ぬいぐるみや家族写真を飾っている方もおり、個々に合わせた居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	了解の元居室に名札を付けているが、付けられない方は飾り物で理解して頂いたり、居室内を自由に安全に動ける様に状態に応じて混乱しない程度に変更したりしている。		